

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 クレオ
 コード番号 9698 URL <http://www.creo.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務管理室長
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 阿南 祐治
 (氏名) 雨田 高志

TEL 03-5769-3640

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|-------|-------|------|-------|------|-------|------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 28年3月期第3四半期 | 7,038 | △13.6 | 97 | △16.1 | 117 | △12.8 | 286 | — |
| 27年3月期第3四半期 | 8,146 | 1.1 | 116 | △48.3 | 134 | △41.4 | △35 | — |

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 282百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 △14百万円 (—%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円銭 | 円銭 |
| 28年3月期第3四半期 | 33.06 | — |
| 27年3月期第3四半期 | △4.12 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 28年3月期第3四半期 | 6,610 | 5,036 | 75.6 |
| 27年3月期 | 7,159 | 4,799 | 66.5 |

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 4,996百万円 27年3月期 4,760百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円銭 | 円銭 | 円銭 | 円銭 | 円銭 |
| 27年3月期 | — | 0.00 | — | 5.00 | 5.00 |
| 28年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 28年3月期(予想) | — | — | — | 5.00 | 5.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | |
|----|--------|-------|------|-------|-----------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 通期 | 10,000 | △12.5 | 300 | △21.3 | 350 | 64.0 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

特定子会社の異動には該当しておりませんが、第1四半期連結会計期間において、当社は株式会社筆まめの全株式を売却し、平成28年3月期より株式会社筆まめは連結の範囲から除外されました。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|-------------|----------|-------------|
| 28年3月期3Q | 9,237,319 株 | 27年3月期 | 9,237,319 株 |
| 28年3月期3Q | 583,473 株 | 27年3月期 | 581,646 株 |
| 28年3月期3Q | 8,654,934 株 | 27年3月期3Q | 8,657,060 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 4 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 4 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 4 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (セグメント情報等) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業収益や雇用の改善に支えられて回復軌道を維持しているものの、新興国を中心とした海外経済の減速などの下押し圧力によって、期待した水準に比べて伸び悩み結果となりました。

当業界におきましては、足元の景気回復に対応するための事業拡大、人財確保が重要な課題となっていることとともに、景気が後退局面に転換した場合でも継続的、安定的に業績を伸長させるための事業構造改革への取り組みが必要な状況となっています。

このような状況の中、当社グループは平成27年4月にBtoC事業を展開する筆まめ事業の譲渡を実施しました。これに伴い一時的に売上、利益の減少があるものの、BtoB事業に対し集中的な投資を行うことで収益力強化、M&A等による成長の加速を実現すべく取り組みを行っております。

※BtoB：企業対企業間の取引(Business to Business)

BtoC：企業対消費者間の取引(Business to Customer)

当第3四半期連結累計期間における、当社グループの状況は、売上は筆まめ事業の譲渡により、前年同四半期比で11億7百万円減少しましたが、営業利益は主に前期営業損失となっていたクレオマーケティング事業、クレオネットワークス事業の業績改善などにより、前年同四半期比で18百万円の減少に留まりました。経常利益は営業利益の減少に伴い前年同四半期比で17百万円の減少、親会社株主に帰属する四半期純利益に関しては第1四半期の筆まめ事業の株式売却益により、前年同四半期比から大幅に増加となりました。

以上の結果、売上高は、70億38百万円(前年同四半期比13.6%減)、営業利益は、97百万円(前年同四半期比16.1%減)、経常利益は、1億17百万円(前年同四半期比12.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、2億86百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失35百万円)となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

- ・クレオマーケティング事業 (主たる事業：基幹系・情報系業務ソリューションから、組み込み系ソフトウェアまで、トータルICTソリューションの開発・提供)

人事給与、会計を中心としたZeeM製品の販売が、マイナンバー制度導入に伴う需要増、およびアマノ社による販売増により堅調に推移したことに加え、アマノ社向けなどシステム開発売上が増加したことにより売上高は前年同四半期比で1億55百万円の増加となりました。利益に関しては、売上高の増加による利益増に加え、過年度から継続している不採算プロジェクトの影響が減少したこと等により、営業損失額は前年同四半期比で75百万円減少しました。

その結果、売上高は17億40百万円(前年同四半期比9.8%増)、営業損失は3百万円(前年同四半期は営業損失79百万円)となりました。

- ・クレオソリューション事業 (主たる事業：システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発)

既存顧客の受注減により売上高は99百万円減少しましたが、プロジェクト管理を徹底し不採算プロジェクトの発生防止、人員配置の最適化を実施したことにより、営業利益は10百万円増加いたしました。

その結果、売上高は25億32百万円(前年同四半期比3.8%減)、営業利益は73百万円(前年同四半期比15.9%増)となりました。

- ・クレオネットワークス事業 (主たる事業：ICT基盤サービスプラットフォームの提供とBPMツールの開発・販売)

売上高に関しては、前年度にメディア事業を譲渡したことによる減少があったものの、ビジネス基盤サービス「SmartStage」を中心としたサービス展開に注力したことにより、売上高は前年同四半期比でほぼ同水準の6百万円減となりました。利益に関しては、メディア事業譲渡による減少があったものの、前年度から取り組んでいる原価、販売管理費の費用構造の改革により、営業損益はプラスに転じました。

その結果、売上高は3億78百万円(前年同四半期比1.8%減)、営業利益は10百万円(前年同四半期は営業損失52百万円)となりました。

- ・クリエイトラボ事業 (主たる事業：ヘルプデスクなどを中心としたサポート&サービス)

一部顧客向けサービスにおける案件の縮小により売上高は前年同四半期比で1億30百万円の減少となりました。業務効率化、売上原価及び販売費及び一般管理費の削減に努めたものの、営業利益は前年同四半期比で27百万円の減少となりました。

その結果、売上高は23億86百万円(前年同四半期比5.2%減)、営業利益88百万円(前年同四半期比24.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、4億26百万円の減少となりました。

これは主として売掛金の減少によるものです。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、1億22百万円の減少となりました。

これは主としてソフトウェアの減少によるものです。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、7億68百万円の減少となりました。

これは主として未払金、賞与引当金の減少によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、2億37百万円の増加となりました。

これは主として親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関しましては、平成27年5月13日付け「平成27年3月期決算短信」において公表いたしました数値より変更はございません。

連結業績予想には、リスクや不確実性を含んでおり、そのための様々な要因の変更により、大きく異なる結果になる可能性があります。通期の連結会計期間においては、以下のようなリスクがあります。

①クレオマーケティング事業については、新規顧客の獲得の遅れが生じた場合、あるいは通期の連結会計期間に予定しているライセンス販売等の検収が来期にずれ込む場合には、予想と実績が大きく乖離する可能性があります。

②クレオソリューション事業については、事業の性質上通期の連結会計期間末に検収が集中しており、検収の進捗により売上計上時期が来期にずれ込む可能性があります。また、今後の開発状況によっては不採算プロジェクトが顕在化する可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間において、当社は株式会社筆まめの全株式を売却し、平成28年3月期より株式会社筆まめは連結の範囲から除外されました。

また、当社の連結子会社である株式会社クレオソリューションは、平成27年11月に東京地方裁判所に民事再生手続の申立を行いましたイアス株式会社に対して、スポンサーとして再建支援することを取締役会にて決定し、株式会社クレオソリューションが同社とスポンサー契約を締結しております。詳細につきましては、平成27年11月13日に公表いたしました「子会社によるイアス株式会社とのスポンサー契約締結に関するお知らせ」をご参照ください。

当社の連結子会社である株式会社クリエイトラボは、平成28年1月に株式会社アダムコミュニケーションの株式を取得し、連結子会社としております。詳細につきましては、平成27年12月25日に公表いたしました「当社連結子会社による株式取得(孫会社化)に関するお知らせ」をご参照ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

| | 前連結会計年度 (平成27年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,553 | 3,813 |
| 受取手形及び売掛金 | 2,149 | 1,253 |
| 商品及び製品 | 24 | 25 |
| 仕掛品 | 204 | 413 |
| その他 | 186 | 185 |
| 流動資産合計 | 6,118 | 5,691 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 202 | 167 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 488 | 436 |
| 無形固定資産合計 | 488 | 436 |
| 投資その他の資産 | 350 | 315 |
| 固定資産合計 | 1,041 | 919 |
| 資産合計 | 7,159 | 6,610 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 433 | 384 |
| 未払法人税等 | 43 | 18 |
| 賞与引当金 | 461 | 209 |
| 返品調整引当金 | 79 | — |
| その他 | 1,220 | 857 |
| 流動負債合計 | 2,237 | 1,468 |
| 固定負債 | | |
| 未払役員退職慰労金 | 26 | 26 |
| 資産除去債務 | 53 | 49 |
| その他 | 42 | 29 |
| 固定負債合計 | 122 | 105 |
| 負債合計 | 2,360 | 1,574 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,149 | 3,149 |
| 資本剰余金 | 743 | 743 |
| 利益剰余金 | 1,013 | 1,256 |
| 自己株式 | △178 | △179 |
| 株主資本合計 | 4,728 | 4,970 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 32 | 25 |
| その他の包括利益累計額合計 | 32 | 25 |
| 非支配株主持分 | 39 | 40 |
| 純資産合計 | 4,799 | 5,036 |
| 負債純資産合計 | 7,159 | 6,610 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日) |
|---------------------------------------|--|--|
| 売上高 | 8,146 | 7,038 |
| 売上原価 | 6,361 | 5,713 |
| 売上総利益 | 1,784 | 1,324 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,667 | 1,226 |
| 営業利益 | 116 | 97 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 0 | 1 |
| 受取配当金 | 2 | 2 |
| 助成金収入 | — | 12 |
| 投資事業組合運用益 | 12 | — |
| その他 | 4 | 3 |
| 営業外収益合計 | 19 | 19 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 0 | 0 |
| 為替差損 | 1 | — |
| その他 | 0 | 0 |
| 営業外費用合計 | 1 | 0 |
| 経常利益 | 134 | 117 |
| 特別利益 | | |
| 子会社株式売却益 | — | 204 |
| 特別利益合計 | — | 204 |
| 特別損失 | | |
| 和解金 | 10 | — |
| ソフトウェア評価損 | 85 | — |
| その他 | 0 | 0 |
| 特別損失合計 | 96 | 0 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 37 | 321 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 57 | 23 |
| 法人税等調整額 | 12 | 7 |
| 法人税等合計 | 70 | 31 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △32 | 289 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 3 | 3 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △35 | 286 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日) |
|-------------------|--|--|
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △32 | 289 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 17 | △6 |
| その他の包括利益合計 | 17 | △6 |
| 四半期包括利益 | △14 | 282 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △18 | 279 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 3 | 3 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | クレオ マーケティング 事業 | クレオ ソリューション 事業 | 筆まめ 事業 | クレオ ネットワークス 事業 | クリエイトラボ 事業 | 合計 |
|-----------------------|----------------------|----------------------|-----------|----------------------|---------------|-------|
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,584 | 2,632 | 1,027 | 384 | 2,516 | 8,146 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 38 | 10 | 0 | 121 | 400 | 572 |
| 計 | 1,623 | 2,643 | 1,028 | 506 | 2,917 | 8,718 |
| セグメント利益又は損失(△) | △79 | 63 | 109 | △52 | 116 | 156 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-----|
| 報告セグメント計 | 156 |
| セグメント間取引消去 | △42 |
| 全社費用及び利益(注) | 2 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 116 |

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | クレオ マーケティング 事業 | クレオ ソリューション 事業 | クレオ ネットワークス 事業 | クリエイトラボ 事業 | 合計 |
|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------|-------|
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,740 | 2,532 | 378 | 2,386 | 7,038 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 31 | 81 | 66 | 370 | 548 |
| 計 | 1,772 | 2,613 | 444 | 2,756 | 7,587 |
| セグメント利益又は損失(△) | △3 | 73 | 10 | 88 | 168 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|------|
| 報告セグメント計 | 168 |
| セグメント間取引消去 | △127 |
| 全社費用及び利益(注) | 57 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 97 |

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、経営資源の選択と集中に対する検討を慎重に重ねた結果、BtoBビジネスへの事業に経営の舵をきることが決定しました。決定に伴い、平成27年4月20日をもって、当社は株式会社筆まめの全株式を売却し、第1四半期連結会計期間より株式会社筆まめは連結の範囲から除外されました。

上記に伴い、第1四半期連結会計期間より、「筆まめ事業」は報告セグメントから除外しております。